

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成22年8月13日
【四半期会計期間】	第16期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	株式会社あみやき亭
【英訳名】	AMIYAKI TEI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 啓介
【本店の所在の場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目2番地の1
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【最寄りの連絡場所】	愛知県春日井市如意申町五丁目2番地の1
【電話番号】	0568(32)8800
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 千々和 康
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第15期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第16期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第15期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(百万円)	-	5,363	17,572
経常利益(百万円)	-	435	1,896
四半期(当期)純利益(百万円)	-	181	1,013
純資産額(百万円)	-	10,579	10,500
総資産額(百万円)	-	13,047	13,352
1株当たり純資産額(円)	-	154,471.46	153,315.82
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	2,655.50	14,796.55
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	-	81.1	78.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	-	88	1,750
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	-	425	1,546
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	-	104	191
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(百万円)	-	1,269	1,888
従業員数(人)	-	391	390

(注) 1. 第15期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第15期 第1四半期 累計(会計)期間	第16期 第1四半期 累計(会計)期間	第15期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(百万円)	3,886	-	-
経常利益(百万円)	364	-	-
四半期(当期)純利益(百万円)	198	-	-
持分法を適用した場合の投資利益(百万円)	-	-	-
資本金(百万円)	2,473	-	-
発行済株式総数(株)	68,488	-	-
純資産額(百万円)	9,789	-	-
総資産額(百万円)	11,356	-	-
1株当たり純資産額(円)	142,944.47	-	-
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	2,905.41	-	-
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	86.2	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	251	-	-
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	361	-	-
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	70	-	-
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(百万円)	1,680	-	-
従業員数(人)	275	-	-

- (注) 1. 第15期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、それ以降については記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。  
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関連会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	391	(2,055)
---------	-----	---------

（注）従業員数は、就業人員であります。また（ ）内にパートタイマー（1日8時間換算）を外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	305	(1,772)
---------	-----	---------

（注）従業員数は、就業人員（パートタイマーを除く）であります。また、（ ）内にパートタイマー（1日8時間換算）を外数で記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) (百万円)	前年同四半期比(%)
焼肉事業	564	-
その他	0	-
合計	564	-

- (注) 1. 金額は製造原価によって表示しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 仕入実績

当第1四半期連結会計期間の仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

##### 原材料仕入実績

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) (百万円)	前年同四半期比(%)
焼肉事業	469	-
その他	0	-
合計	469	-

- (注) 1. 金額は製造原価によって表示しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

##### 商品仕入実績

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) (百万円)	前年同四半期比(%)
焼肉事業	1,017	-
焼鳥事業	334	-
その他	93	-
合計	1,445	-

- (注) 1. 金額は仕入価額によって表示しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 受注状況

当社は、見込生産を行っておりますので、受注状況については記載すべき事項はありません。

## (4) 販売実績

当第1四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) (百万円)	前年同四半期比(%)
売上高		
焼肉事業	4,075	-
焼鳥事業	950	-
その他	338	-
合計	5,363	-

## 2【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間における我が国経済は、アジア向けを中心とした輸出の増加や生産の持ち直し等は見られるものの、依然として雇用環境は低迷しており、個人消費は厳しい状況で推移しております。

当業界におきましても、雇用情勢の悪化、個人所得の減少など節約志向の高まりから個人消費は低迷しており、また、業態を超えた価格競争の激化により取り巻く経営環境は、引き続き厳しい状況で推移しております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「お客様に喜んで頂き、選んで頂く店舗作り」を目指し「食肉の専門集団」である強みを活かした食肉の知識と技術を駆使した商品の品質の一層の向上に努めるとともに、パート・アルバイトの「多能工化」を通じた接客・サービス力向上への取組を行い、既存店の強化を行って参りました。

店舗数につきましては、あみやき亭1店舗（あみやき亭大垣店）を新規出店し、かるび家2店舗、楽市1店舗の退店をしたため、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は170店舗となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (焼肉事業)

新規出店と退店の結果店舗数は期末よりも減少しましたが、既存店の売上が好調となり、売上・利益ともに順調に推移しました。

その結果、売上高は40億75百万円、営業利益は3億61百万円となりました。

#### (焼鳥事業)

既存店の売上が好調となり、売上・利益ともに順調に推移しました。

その結果、売上高は9億50百万円、営業利益は88百万円となりました。

#### (その他の事業)

当セグメントには、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

売上高は3億38百万円、営業損失は22百万円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高5,363百万円、営業利益427百万円、経常利益435百万円、四半期純利益181百万円となりました。

なお、当社は平成22年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成したため、前年同期比の表示は記載しておりません。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して618百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末には、1,269百万円となりました。当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間において、営業活動の結果使用した資金は、88百万円となりました。

これは主に、法人税等の支払額が556百万円となったこと等を反映したものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は、425百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出が429百万円あったこと等を反映したものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間において、財務活動の結果使用した資金は、104百万円となりました。

これは主に、配当金の支払額が102百万円あったこと等を反映したものであります。

なお、当社は平成22年3月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成したため、前年同期比の表示は記載しておりません。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

( 5 ) 財政状態の分析

( 資産の部 )

当第1四半期連結会計期間末の資産の内、流動資産は、現金及び預金の減少により5,407百万円となり、前連結会計年度末と比較して、551百万円減少しました。

以上の結果、資産の部は、13,047百万円となり、前事業年度末と比較して、305百万円の減少となりました。

( 負債の部 )

当第1四半期連結会計期間末の負債の内、流動負債は、未払法人税等の減少により2,184百万円となり、前連結会計年度末と比較して、597百万円減少しました。

固定負債は、資産除去債務を計上したことにより、283百万円となりました。

以上の結果、負債の部は、2,467百万円となり、前連結会計年度末と比較して、384百万円の減少となりました。

( 純資産の部 )

当第1四半期連結会計期間末の純資産の部は、利益剰余金の増加により、10,579百万円となり、前連結会計年度末と比較して、79百万円の増加となりました。

以上の結果、自己資本比率は、81.1%となり前連結会計年度末と比較して、2.5ポイント増加となりました。



### 第3【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

平成22年6月30日現在において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

##### 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方 法	着手及び完了予定年 月		完了後の 増加能力 (増加客 席数)
				総額 (百万 円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
株式会社 あみやき亭 あみやき亭1店舗	愛知県	焼肉事業	店舗内装 設備等	68	2	自己資金	平成22年 8月	平成22年 9月	214
株式会社 あみやき亭 元祖やきとり家 美濃路1店舗	愛知県	焼鳥事業	店舗内装 設備等	30	2	自己資金	平成23年 1月	平成23年 2月	118
株式会社スエヒ ロレストランシス テム スエヒ口館1店舗	東京都	焼肉事業	店舗内装 設備等	75	8	自己資金	平成22年 8月	平成22年 9月	196
株式会社スエヒ ロレストランシス テム スエヒ口館1店舗	東京都	焼肉事業	店舗内装 設備等	75	4	自己資金	平成22年 9月	平成22年 10月	214

(注) 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含まれておりません。なお、金額には消費税等は含まれておりませ  
ん。

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画していた重要な設備の新設計画のうち、完了した  
ものは、次の通りであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資額 (百万円)	完了年月	完了後の増加能力 (増加客席数)
株式会社 あみやき亭 あみやき亭1店舗	岐阜県	焼肉事業	店舗内装設備	70	平成22年4月	192

(注) 投資額には、無形固定資産が含まれております。なお金額には消費税等は含まれておりません。

##### 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	144,000
計	144,000

##### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年8月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	68,488	68,488	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	当社は単元株制度は採用していません。
計	68,488	68,488	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成22年4月1日～ 平成22年6月30日	-	68,488	-	2,473	-	2,426

#### (6)【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、インベスコ投信投資顧問株式会社から平成22年5月11日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成22年4月30日現在で3,469株を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

なお、インベスコ投信投資顧問株式会社の大量保有報告書の写しの内容は以下のとおりであります。

大量保有者 インベスコ投信投資顧問株式会社  
住所 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー25階  
保有株式等の数 株式 3,469株  
株券等保有割合 5.07%

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式68,488	68,488	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
端株	-	-	-
発行済株式総数	68,488	-	-
総株主の議決権	-	68,488	-

【自己株式等】

平成22年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月
最高(円)	293,800	270,700	268,100
最低(円)	245,000	217,300	207,700

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表及び四半期財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号、以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
- (3) 前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）は四半期連結財務諸表を作成していないため、前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書に代えて、前第1四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書を記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期財務諸表については、あずさ監査法人による四半期レビューを受け、また、当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,719	5,304
預け金	50	83
売掛金	4	4
商品及び製品	29	33
原材料及び貯蔵品	72	59
繰延税金資産	131	184
未収還付法人税等	137	80
その他	262	208
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	5,407	5,958
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,348	4,103
構築物(純額)	364	367
機械及び装置(純額)	191	187
車両運搬具(純額)	7	6
工具、器具及び備品(純額)	229	224
土地	489	489
建設仮勘定	3	17
有形固定資産合計	5,634	5,396
無形固定資産		
ソフトウェア	17	19
その他	48	48
無形固定資産合計	65	68
投資その他の資産		
投資有価証券	11	11
長期貸付金	254	259
繰延税金資産	183	149
差入保証金	1,081	1,108
その他	417	409
貸倒引当金	9	9
投資その他の資産合計	1,939	1,928
固定資産合計	7,639	7,393
資産合計	13,047	13,352

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	633	718
未払金及び未払費用	876	1,001
未払法人税等	181	597
引当金	253	212
その他	238	251
流動負債合計	2,184	2,781
固定負債		
資産除去債務	222	-
引当金	1	2
負ののれん	0	0
繰延税金負債	17	11
その他	42	57
固定負債合計	283	70
負債合計	2,467	2,852
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,426	2,426
利益剰余金	5,680	5,601
株主資本合計	10,581	10,502
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1	1
評価・換算差額等合計	1	1
純資産合計	10,579	10,500
負債純資産合計	13,047	13,352

( 2 ) 【四半期連結損益計算書】  
【前第1四半期累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	1 3,886
売上原価	1,457
売上総利益	2,429
販売費及び一般管理費	2 2,078
営業利益	351
営業外収益	
受取利息及び配当金	7
協賛金収入	4
雑収入	1
営業外収益合計	13
経常利益	364
特別利益	
受取保険金	0
固定資産売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
固定資産除却損	8
特別損失合計	8
税引前四半期純利益	357
法人税、住民税及び事業税	181
法人税等調整額	23
法人税等合計	158
四半期純利益	198

【当第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	
売上高	1 5,363
売上原価	1,993
売上総利益	3,369
販売費及び一般管理費	2 2,942
営業利益	427
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	0
協賛金収入	3
その他	2
営業外収益合計	10
営業外費用	
その他	1
営業外費用合計	1
経常利益	435
特別利益	
受取保険金	2
店舗閉鎖損失引当金戻入額	6
特別利益合計	8
特別損失	
固定資産除却損	34
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
特別損失合計	123
税金等調整前四半期純利益	320
法人税、住民税及び事業税	169
法人税等調整額	25
法人税等還付税額	56
法人税等合計	138
少数株主損益調整前四半期純利益	181
四半期純利益	181



(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】  
【前第1四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	357
減価償却費	140
引当金の増減額（は減少）	75
有形固定資産除却損	8
受取利息及び受取配当金	7
有形固定資産売却損益（は益）	0
たな卸資産の増減額（は増加）	0
その他の流動資産の増減額（は増加）	18
仕入債務の増減額（は減少）	41
未払金及び未払費用の増減額（は減少）	37
未払消費税等の増減額（は減少）	12
その他の流動負債の増減額（は減少）	4
その他	30
小計	462
利息及び配当金の受取額	12
法人税等の支払額	224
営業活動によるキャッシュ・フロー	251
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有価証券の償還による収入	1,500
定期預金の預入による支出	1,500
有形固定資産の取得による支出	320
有形固定資産の売却による収入	1
無形固定資産の取得による支出	4
差入保証金の差入による支出	30
差入保証金の回収による収入	6
貸付けによる支出	6
貸付金の回収による収入	5
その他	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	361
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	70
財務活動によるキャッシュ・フロー	70
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	180
現金及び現金同等物の期首残高	1,861
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,680

【当第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間  
(自平成22年4月1日  
至平成22年6月30日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	320
減価償却費	172
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	89
引当金の増減額（は減少）	57
有形固定資産除却損	34
受取利息及び受取配当金	4
売上債権の増減額（は増加）	0
たな卸資産の増減額（は増加）	9
その他の流動資産の増減額（は増加）	52
仕入債務の増減額（は減少）	85
未払金及び未払費用の増減額（は減少）	15
未払消費税等の増減額（は減少）	11
その他の流動負債の増減額（は減少）	0
未払法人税等（外形標準課税）の増減額（は減少）	30
その他	0
小計	466
利息及び配当金の受取額	1
法人税等の支払額	556
営業活動によるキャッシュ・フロー	88
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	429
無形固定資産の取得による支出	0
差入保証金の差入による支出	22
差入保証金の回収による収入	31
貸付けによる支出	1
貸付金の回収による収入	6
その他	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	425
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
リース債務の返済による支出	1
配当金の支払額	102
財務活動によるキャッシュ・フロー	104
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	618
現金及び現金同等物の期首残高	1,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,269

## 【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
会計処理基準に関する事項 の変更	<p>1. 資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益はそれぞれ4百万円減少しており、税金等調整前四半期純利益は93百万円減少しております。</p> <p>また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は222百万円であります。</p>

## 【表示方法の変更】

該当事項はありません。

## 【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
固定資産の減価償却費の算定方法	<p>定率法を採用している資産について事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。</p>

## 【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額は4,429百万円でありま す。	有形固定資産の減価償却累計額は4,253百万円でありま す。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1 ポイントサービス引当金繰入額0百万円を控除してお ります。
2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費用及び金額は 次のとおりです。
給与手当 949百万円
賞与引当金繰入額 38百万円
役員賞与引当金繰入額 3百万円
株主優待引当金繰入額 30百万円

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1 ポイントサービス引当金繰入額1百万円を控除してお ります。
2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費用及び金額は 次のとおりです。
給与手当 1,382百万円
賞与引当金繰入額 56百万円
役員賞与引当金繰入額 5百万円
株主優待引当金繰入額 6百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在) (百万円)	
現金及び預金	5,145
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,500
その他(預け金)	34
現金及び現金同等物	1,680

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (百万円)	
現金及び預金	4,719
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,500
その他(預け金)	50
現金及び現金同等物	1,269

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数  
普通株式 68,488株
2. 自己株式の種類及び株式数  
該当事項はありません。
3. 新株予約権等に関する事項  
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月16日 定時株主総会	普通株式	102	1,500	平成22年3月31日	平成22年6月17日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. セグメントの概要

当社グループのセグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「お客様に喜んでいただき、選んでいただく店舗作り」を目指し、食肉を中心とした商品を提供する飲食店経営をしております。

したがって、当社グループは各店舗別業態を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「焼肉事業」「焼鳥事業」の2つを報告セグメントとしております。

「焼肉事業」は主に焼肉を提供する飲食店を展開しており、店舗としては「あみやき亭」「どんどん」「かるび家」「スエヒロ館」を展開しております。「焼鳥事業」としては主に焼鳥と釜めしを提供する飲食店を展開しており、店舗としては「元祖やきとり家美濃路」を展開しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	焼肉事業	焼鳥事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,075	950	5,025	338	5,363
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,075	950	5,025	338	5,363
セグメント利益又は損失( )	361	88	449	22	427

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、居酒屋事業及びレストラン事業等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(百万円)

利益	金額
報告セグメント計	449
「その他」の区分の利益又は損失( )	15
全社費用	7
四半期連結損益計算書の営業利益	427

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 154,471.46円	1株当たり純資産額 153,315.82円

2. 1株当たり四半期純利益金額

前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額 2,905.41円 なお潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期純利益(百万円)	198
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	198
期中平均株式数(千株)	68

当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額 2,655.50円 なお潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純利益(百万円)	181
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	181
期中平均株式数(千株)	68

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8月13日

株式会社あみやき亭  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 安藤 泰行 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 楠元 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あみやき亭の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第15期事業年度の第1四半期会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あみやき亭の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 8月13日

株式会社あみやき亭  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 順 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 楠元 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あみやき亭の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あみやき亭及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載されているとおり、会社は当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。